

■第1小委員会議事録

委員名：橋本秀晴委員、江連広士委員、伊吹桂子委員、藤村由美子委員、後藤政人委員

【基本目標1】誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり 評価結果：B

◆施策の方向性1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり 評価結果：B

◆施策の方向性2 地域福祉のニーズキャッチの充実 評価結果：B

◆施策方向性3 福祉サービスの充実と権利擁護 評価結果：B

(意見)

委員：総務部 窓口サービス向上委員会の開催なし「実績なし」で『C』で良いのか。

事業実施計画の設定がおかしい。実際に他にも取組やっているのに評価できない。

事務局：第4期計画評価で改善する。

委員：新庁舎の計画が進んでいなくても、計画的に進めていく必要がある。

委員：「ワンストップ」新庁舎がなくても必要、計画がなくても改善していく必要がある。

委員：コロナ禍で事業が進まなかったということは減ったのでは。工夫をして実施している。

【基本目標2】誰もが暮らしやすい生活環境づくり 評価結果：B

◆施策の方向性1 生活環境の充実 評価結果：B

◆施策の方向性2 防災・防犯体制の充実 評価結果：B

◆施策の方向性3 地域での居場所づくり、活躍の場づくり 評価結果：B

◆施策の方向性4 地域における見守り体制の充実 評価結果：B

(意見)

委員：見守りを実施していない自治会がある。全自治会で実施できるとよい。

委員：コロナで見守り活動の休止があった。地域の高齢者、コロナ後でも感染を恐れて、玄関に出てきてくれない方もいる現状がある。

委員：無理に接触することもできないので、近所の人に様子を聞いたりして安否確認している。

委員：防災士、県内で2番目に多いが、防災士を活用していない。

委員：自治体から地域で活動するように声掛けをしてほしいと伝えている。避難訓練で役割を持たせた方がよい。

委員：居場所づくりの状況はどのような状況か。

事務局：百歳体操が高齢者の居場所になっている。就労準備支援事業での取組も実施している。

子ども食堂が増えてきている。地域づくりの一翼を担っている。

【基本目標3】みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり 評価結果：B

◆施策の方向性 お互いを理解し、尊重し合える環境づくり 評価結果：B

◆施策の方向性2 地域福祉活動の担い手の育成 評価結果：B

◆施策の方向性3 地域でのつながりづくり 評価結果：B

(意見)

委員：ボランティアセンターの活動がわからない。一般市民がわからないとボランティアを集めることはできないのではないか。ボランティアセンターは何をやっているところなのか。どのようにすれば良いのかわからない。

事務局：ボランティアセンターだよりを発行している。

委員：たよりを目にする機会がない人はどのように活動を知るのか。情報を見ることができず、参加できない人もいる。広く告知する必要はないのか。個人ボランティアで登録している人もいるが、コーディネートが難しい。ハローワークのように常に情報が出ていれば参加しやすい。どこで何をやっているかわからない。

委員：気軽に参加できる仕組みづくりが必要。ボランティアポイント制度はあったら良いと思う。担い手はいるのか。

事務局：気持ちがあっても、仕事などで時間がなくできない場合も多い。

委員：若い人で志がある人は多いと思うので、参加しやすい状況を。世代交代必要。

委員：自治会の活動も仕事で役割を担えない人多い。非正規雇用をなくしないと改善されない。自治会の役員、やらされているという感覚がある。

委員：ボランティアは少しでも力になればと、自分から進んでやっている。SNSでボランティアの情報発信してほしい。

委員：子ども食堂あっても、行けない親子がいる、自分から言えない。交通手段がない。宅食もできてきている。何かをやりたいけど、できない、というもどかしさもある。福祉分野とボランティアとのつながりが重要。子ども食堂・地域食堂は NPO など誰でも行ってもよい。